

笠岡市教育委員会 11月定例会 会議録

1 開会年月日	令和7年11月21日（金） 午後3時00分
2 場 所	笠岡市教育委員会会議室
3 出席委員等の 氏名	教育長 大重 義法 委員 東山 琴子 西崎 倫子 杉本 和歳
4 欠席委員の氏名	藤谷 幸弘
5 会議に出席した 者の職・氏名	教育部長 塚本 真一 教育総務課長 川口 葉子 学校教育課長 後藤 嘉孝 生涯学習課長 古宮 奈美子 スポーツ推進課長 重見 圭一 給食センター所長 山本 英司 教育総務課課長補佐 藤代 幸弘
6 付議案件及び 議決状況	協議報告事項 別議案紙のとおり
7 会議の状況	別紙のとおり
8 閉会年月日	令和7年11月21日（金） 午後4時38分

議事録署名委員 教育委員 東山 琴子

教育委員 杉本 和歳

会議録を調製した職員 川口 葉子

会 議 の 状 況

1 開 会 （大重教育長）

2 前回議事録（定例会）の報告 （藤代課長補佐）

前回令和7年10月定例会の会議録を報告します。10月定例会は、令和7年10月17日（金）午後1時29分から、教育委員会会議室で開催されました。出席者は藤谷委員，東山委員，西崎委員，杉本委員のご出席をいただきました。審議案件はありませんでした。閉会は同日の午後2時10分でした。

3 教育長の報告（挨拶）

まずは、先般行われた教育施設の訪問では、大変お世話になりました。六島小学校と竹喬美術館に行っていて、それぞれの取組の状況や成果・課題という部分も含めてしっかり見ていただけたのではないかと考えていますので、今後の施策に是非生かしていけたらと考えているところです。それからこの後も報告がありますが、いきいきオープンスクールについては市内の各学校に足を運んでいただき実際の様子も見ていただいて、色々なことを感じていただいたと思います。今後に向けてもご意見をたくさんいただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

さて、笠岡市教育委員会としては色々な教育課題に対して、積極的に色々な手を打ってきています。まだまだ課題は多いけれども、色々動いていく中で手応えや成果も出始めていると考えています。そういった中で成果をしっかり確認していきながら、更なる課題解決に向けた打ち出しということが必要になってくると思っています。

例を挙げますと、長期欠席不登校については特に中学校で毎年減ってきていることは折りに触れてご紹介していますが、今年度の現時点での途中経過も、中学校は昨年度よりも更にぐっと減っている状況です。実数で言うと今月分で10人ぐらい減っています。それから小学校について、令和5年度で4年度と比較して大きく増えている状況が懸念された訳ですが、令和6年度にこれが止まったということは申し上げたいと思います。今年度はどうかというと、小学校も中学校と同様に減ってきています。ですから、そういった意味では成果が出始めていると思います。けれども長欠不登校については、データ上で減ったらそれで良いという訳ではないので、支援が必要な困っている子ども達に対してどういう手を打ち続けていくか、ということが大事な観点かと思っています。それから小学校のチーム担任制ですが、これも大分軌道に乗ってきたと思っています。取組を始めた当初から、いわゆる学級崩壊が起きないとか、あるいは学級経営に苦慮して休んでしまう教員が出ないという手応えはあった訳ですが、ここにきて更に取組を進めていく中で、今はキーワードとなっていますが、「みんなでみんなを担任する」という意識にシフトチェンジしていく中で、色々な成

果が更に出てきています。これは子どもの姿についてもそうですし、教員の姿についても大分変わってきています。例えば休みを取ったり出張に出たりということもできやすくなったという声もありますし、先般校長の中間面談を行いました。実施をしている学校の何校かで、具体的に時間外在校等時間が減ったということで、グラフまで持ってきて、こんなに減りましたよと成果を示す学校も出てきています。これを始めた当初は、どうしても細かいことを確認したり、共通理解をしていったり、そこに時間がかかるということで時間が逆に増えてしまったという話が4月当初には出ていたのですが、ここにきて時間外が減った。「2年目以降は更に減りますよ。」と、自信を持って話す校長もいます。チーム担任制の次なる取組、成果を上げていきたいところとしては、教科担任制も併せてやっているの、教科の指導のクオリティが上がっていき、授業が分かりやすくなり、学力についても結果として跳ね返ってくるということを、この後しっかり展開していきたいと思っています。現に教材研究の時間が大分減ったという声はあり、学年をまたがってはいるけれども、算数を2学年やるとか国語をやるとか、担当教科を分けているので、教科の種類が減ることによってより効率的に授業準備とか教材研究ができるようになったという声を聞いています。そういった意味で成果が上がってきているし、今後の取組に期待したいと思います。更には「たい！」のあふれる教育というキーワードで笠岡の教育を展開していますが、本当に「たい！」があふれ始めているなどと思っています。学力学習状況調査の中に「将来の夢や目標を持っている」という調査項目があります。これが小学校の児童について、昨年度に比べて、今年度は県平均と比べて笠岡の数値が大きく上がっています。そこが上がるというのはすごいことだと思っています。今は地域探究学習を始め、どんどん子ども達が主体的に活動するという姿があふれかえっているような状況が、色々なところで見取れるようになってきました。そういうものが、特に小学生の、先ほど申し上げたようなデータの上昇につながっているのはすごいことだと思っています。次なる部分としては、例えば地域探究学習についても、色々なものを調べて色々なものが分かって、それで楽しかったねということで終わったのでは駄目だと思います。これは学習の中でやっていることなので、普段の各教科での学びというものに裏打ちされた取組になっていくことが、更にそれを高めていくことに繋がっていく。今回皆様方もオープンスクールで各学校に行ってください、例えば地域探究学習を発表する場面等も見ただいたという話も聞きますが、それがただ単に何か調べて、それでどうだったこうだったみたいなレベルだと、そこで終わってしまうのか上滑ってしまうのですね。だけれども、各教科で学んだことに裏打ちされた取組ということになると、それが更に高まっていくし、教科の力も高まっていくということで、そこを往還させるというのが次なる取組になっていくと思っていますところで、何点かの事例も含めてお話しさせていただきましたが、今取り組んでいることの成果をしっかりと確認していきながら、次の段階に向けてどう挑んでいくかということ

を今後も是非力を入れていきたいと思っています。今日も色々な観点でご説明等をさせていただきますが、忌憚のないご意見をたくさんいただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

4 議事録署名人の指名（東山委員，杉本委員）

5 協議・報告

（1）笠岡市小・中学校いきいきオープンスクールの実施状況について（学校教育課）

後藤課長 笠岡市小・中学校いきいきオープンスクールの実施状況についてご報告させていただきます。期間は原則11月4日から7日の間の2日間ということで、各校の実態に応じて市内全校で実施されました。

参加者の延べ人数、昨年度との増減については、小学校については保護者が972、昨年度と比べ22人の増加、保護者以外については406人ということで、4人増加です。合計1,378人で、26人増加しています。中学校については保護者は373人ということで、昨年度に比べ101人の増加、保護者以外の人数は245人で、47人の増加、合計618人で、148人の増加となっています。学校より報告された成果・課題等については、簡単にご説明させていただくと、地域の方にもっと多く参加していただくために、公民館やまちづくり協議会などの協力を得ながら、広報活動をもっと行う工夫をしていく必要がある。教育委員の方々、放課後デイサービス、学校運営協議会の方など、他機関や地域の方々も来校してくださり、学校の児童の様子を見ていただけたことも成果である。教室や廊下、階段の掲示物などを見て、学校の教育方針や校内ルールについて知っていただけた。チーム担任制について興味を抱かれ、チーム担任制について尋ねられる方もおられたので、今後チーム担任制の取組や成果・課題などを定期的に発信していきたい。今年度は参観日と同時開催はしなかった。保護者の意見として、「参観日とは違った子どもの顔が見られて良かった」や「挨拶が気持ちよかった」。「先生の説明が分かりやすかった」。「子どもが楽しそうにしていた」などの好意的な意見が多かった。一番最後、これは中学校ですが、今年度は小学校への案内の送付、中学校体験での告知などを行ったので、昨年度と比べ小学校の保護者の来校が増えました。また、学校をより知ってもらうために、行事の動画を流すなどの工夫を行いました。オープンスクールだけでは見ることのできない行事の様子なども知っていただけたと思います。ということで各校工夫を凝らし、保護者だけではなく地域の方々や色々な方に、普段の学校の様子や学校が今重点的に取り組んでいること。学校の行事等を発信する良い機会と

なったと思います。安全管理という部分でも、各校で工夫が見られました。また、それぞれ保護者の方・地域の方にアンケートを実施していますので、それを各校の取組に生かしていただけたらと思っています。

大重教育長 委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。実際に皆様方にも足を運んでいただいた訳ですが、いかがでしょうか。

教育委員 今ここに書かれているような感想を私も抱いたのですが、私は特に自立応援室を各校で見させていただきました。その子その子に合った空間作りであったり、対応の仕方であったりということをしっかりしてくださっているなと思いました。

その部屋に本来ならいるはずの時間にいらっしやらないこともあって、お聞きしたら、図書室に先生と一緒にいらっしゃいますということで、図書室で過ごされていて安心したのですが、1人のお子さんがものを書くのが好きな子で、自分で本を作っているのですよ。先生が表紙を作ったりとか帯を作ったりとかいうことで、すごくやる気にも通じるのではないかと感じました。

小学校と中学校で同じ名称で自立応援室をしていますということで、小学校でここを利用して、中学校に入っても同じ名称の方がなじみやすいかという配慮をされているところもあって、よその学校ももし意識されるようであれば、そういうことも参考にされれば良いのかなと感じました。あとは小中一貫教育ということもあるのかと思うのですが、神島外小学校では中学生の自主学習の成果みたいなものも貼ってあって、例えば高学年のお子さんであったら、中学生ではこういう感じの勉強をするのだなということも参考になって、とても良いことだなと思いました。あとは、中学校はあまり地域と連携ということを感じていなくて、小学校の方がすごくあったのですが、大島のテゴレンジャーであったりとか、金浦中学校の地域の方に出向いてということもされていたので、そういったことがどんどんこれから中学校でも増えてくるのではないかと、増えてくれれば良いなと感じました。

大重教育長 小中学校で自立応援室の名称を同じにするというのは、これは本当に良い試みだと思います。それから地域探究学習も、中学校といえば新吉中のPNP（プロジェクト新山プレゼンテーション）という印象が強く、大島中も結構やっていますけれども、ここへ来て金浦中学校が結構地域に出て行って、金浦と城見と陶山のそれぞれの地域に、まち協の人達にも協力してもらいながらしっかり入って行って、質の高い取組を行っており手応えを感じているところです。

教育委員 授業に関しても活発な意見を言ったり、食いついている様子を見ること

が昨年より多かったように思います。生き生きとした授業、やる気を感じられる授業が増えてきたと感じました。中には少ししんどそうなお子さん、だるそうなお子さんもいらっしゃいましたが、そこにもきちんと先生方が配慮されていて安心しました。

教育委員

私も小中学校へ行かせてもらったのですが、私はまず複式学級の課題などがどうなのかというのが気になったので、見させてもらいました。教科は別々だけれども、図工は3・4年生か5・6年生か忘れましたが、一緒にやっているという学校もありました。神島外小学校は編入制度があるので、もしできれば、今は国語と算数は別々で、各学年でやっているのだけれども、理科とかそういったものも、可能であったら別々の方が本当は望んでいると言われていて。岐阜県の方はそういうのをやっているところもあるらしいのです。何故かと言うと、例えば3年生で編入してきた子がいきなり4年生の授業を受けるとかいったことも多々起きているようで、理解ができていないので分からないという状況もあるから、可能であったら教科も各学年でできたら良いなというのを仰っていました。あとは個人的に、タブレット学習を令和型の教育ということで推進している学校もあるので、私はどちらかというとならタブレット学習は少し疑問があって、小学校の間どれだけタブレットを使っているのかということも気になったので、色々な学校を見させてもらいました。よく使っている学校の人達は何かそわそわしているような気がして、利用はしているけれども、基本的に読む・書くというのを重視している学校というのは、掲示物もそうですが、子どもの感想でもそうですけれども、とても丁寧なイメージを抱きました。小学校の間は本当にタブレットでいくのかというのが、私の中で疑問になってしまいました。

後藤課長

複式学級のことについては仰るとおり、複式を解消していくのが望ましいと思っています。しかし全教科となるとお金も人もかなり必要になってくるので、やはり複式は解消できるように適正化を進めていく必要があります。

また、これからの子ども達は必ずICTを使う必要性が出てきます。そこを使いこなすためにも情報活用能力というところは、段階を追って身に付けていかないといけないので、小学校の低学年ではこのレベル、中学年でこのレベルという風に少しずつ積み上げていって、義務教育を終える段階で必要な能力というものを身につけることが必要なかと思っています。そこはやりつつも、これまでの学習というものも大切にしていけないのかなと思っています。

大重教育長

複式の学校でA年度・B年度と年度によって教育課程をひっくり返して

いきながら、未履修がないようにやっていくという方法があるのですが、神島外小学校のように転入学特別制度を敷いているところについては、複式でなかった学校から途中で転入してくる子ども達は、いきなり複式の中に入っていくと、そこで未履修の分野が出てくるというのが問題ですが、そこは個別に対応しているというのが現状だと思います。市教委としては、複式はできるだけ解消していくという考え方ですが、神島外小学校については小規模で複式ではあるけれども、ここはこれを残していくという方針ですので、今、ご指摘・ご助言をいただいたようなことを、そこにどういう風に反映させていくかは、考えていかないといけないと思って聞かせていただきました。

それから二つ目に仰った部分、これはすごく大事で、一昨日学校教育課と私で作戦会議をしたのですが、要は1時間1時間の授業、あるいは単元のまとまりごとでどういう力をつけさせていったらいいのか、その力をつけさせていくために最適な教材は何なのか、最適な教具は何なのか、最適な指導方法はどれなのかとか、どういう体制で学ばせるのが一番最適なのかとかいう、そこを考えて戦略的に授業を組み上げていくことが重要です。端末を使わさなければいけないからとりあえず使わせてはいるけれども、こちらの意図どおりに使っていない、遊びごとで使ってるみたいな子があるのであったら全然意味がないですよという話なのですよね。だから、1時間の授業でどういう力を身に付けなければいけないのかということが明確にあれば、どういうものを使ってどういう風にしていくかということになっていくと思います。ここの部分では基礎・基本をとにかく重点的にいかなければいけないから、何が何でも教え込んでやっていくんだという部分も当然あって良い訳なので、そこを本末転倒にならないようにやっていくというのが次なる打ち出しだろうなと思ってるところです。その他はありますか。

教育委員 私は仕事で行けていないので。

大重教育長 また学校の方にも遠慮なく行っていただいて、ご意見をいただけたらと思います。

教育委員 先ほどのタブレットなのですが、保護者の方から意見を言われたのですが、漢字の練習を宿題で出されて、タブレットはきちんとなぞらないと駄目だということがありますよね。あれが紙に書いたらきっとテストでも○になるレベルだけでも、良いようになぞらなかつたらなかなか先に進めなくて、子どもがイライラしたという風なことを言われたので、それは逆に時間ももったいないなと聞きながら思ったのですよね。だから保護者の方にも、どういうところが無駄なのかとか良いところなのかというこ

とを聞く機会があれば、聞いてみられたら先生の宿題の出し方も変わってくるのではないかと思います。紙媒体の方がやりやすいとかいうことがもしできるのならば、評価の仕方とかがやりにくくなるのかもしれないのですが。きっとタブレットにも良さはあると思うのですよ。書き順とかもきちんと学べるとかきっとあるのだろうと思うのですが、もしそれがあまりにもしつこいほどに出てくるのであったら、子どもさんもストレスというお話もありました。

後藤課長 なぞるのはかなり難しいらしいですよ。タッチペンが滑って、きちんと止まらなかったりすると難しいところもあるので、そういう使いにくい部分については色々なご意見を聞きながら、改善できる部分は要望できたらと思います。

教育委員 タブレットを否定的に言われるお母さんだったのですが、例えば3年生になって2年生や1年生のものが分からないという時は、振り返って学習できたりするみたいですよというお話をしたら、そうなのですかということも言われていたので、タブレットの上手な使い方みたいなメリットの部分を、保護者向けにもう一度知らせる機会みたいなものがあれば、有効利用ができるのではないのかと思います。

後藤課長 そこは上手な活用の仕方が必要になってくるかと思いますので、学校によってはA Iのドリル教材を上手に効果的に使って、成果を出している学校が出てきているので、そこは本当に使い方なのだろうと思います。自分の苦手なところをやったり、得意な部分はどんどん上の学年の勉強をしたりとか、そこを子ども達が主体的に学べるような使い方をやっていくことが必要なかもしれないと思います。

大重教育長 それでは、この項目はもうよろしいでしょうか。

教育委員 (異議なし)

(2) 学校規模適正化進捗状況について (学校教育課)

後藤課長 綴じ物の紙をご覧ください。まず陶山小学校の関係ですが、10月20日に城見小への陶山小学校の統合に係る準備委員会の全体会を行っています。内容については統合準備委員会運営方針の説明、統合準備委員会の概要について事務局から説明を行っています。全体会の終了後、五つの部会のうち二つの部会、通学安全部会とPTA部会についてはこの日に部会の方を行っています。吉田小学校関係ですが、ここも準備委員会全体会を10月28日に行っています。内容は陶山小学校と同じものになっています。全体会の終了後、五つの部会のうち通学安全部会と放課後児童クラブ部会の方を行っています。

この準備委員会で行われた内容等についての情報発信・周知方法についてなのですが、統合準備委員会での協議事項や決定事項については統合準備委員会便りを作成して、各学校や保護者、地域の皆様に随時お知らせをしていく予定にしています。まず保護者の皆様には、学校からスグール配信、各地区については、12月の市の広報とともに回覧できるように、まちづくり協議会の方に回覧を依頼しています。各地区の公民館については、掲示用のものを届けています。議員の方についても、議会事務局からタブレット送信という形で通知をさせていただいています。今度は北川小学校関係ですが、11月4日に北部3小学校の統合に係る説明会並びに小北中学校の今後のあり方についての意見交換会を実施しています。その質疑応答の内容については要約したものをまとめているので、少しお時間をいただいて報告をさせていただきます。まず学校規模適正化計画・北川小学校の統合の関係については、意見としては、統合後の通学に不安を感じている保護者が多いと聞いている、その点について質問したいということで、こちらからの回答としては、距離だけでなく熱中症への配慮や子どもの発達段階も考慮し、地域の意見を聞きながら柔軟に決めていく方針である、地域住民の理解と納得を得ながら、話し合いを通じて運行範囲を決めていきたいと回答しています。

スクールバスの運行について、通学費の負担が必要かどうかを確認したいということで、回答は、現在笠岡小学校や大島小学校でスクールバスを利用している児童にバス代の負担はなく、今後も保護者負担は考えていないと回答しています。北川小学校を何らかの形で残せないかと考えている、市内の小中学校統合がここ1年で急速に進んでいることに疑問を持っている、教育的理由以外に財政的な要因があるのではないかと、統廃合は北川地区の定住人口減少に繋がるのではないかとということと、新山小学校への統合案について、同校が土石流警戒区域の一部に含まれているため、安全性をどう考えているのかというご質問がありました。それについては右側に回答していますけれども、少し長いですが、こちらの回答を読ませていただきます。北川小学校・新山小学校・吉田小学校の3校はいずれも児童数が減少しており、教育活動の幅が狭まり、児童の負担も大きくなっている、そのため、地域からも大きな学校に統合した方が良いとの意見も出ている、市としても北部地域の学校のあり方を検討し、3校を統合しても児童数が急増する訳ではないが、複式学級を避けられる程度の規模を維持できる見込みから、北部に1校は残す方針とした、学校規模適正化の基本方針では、学校規模・通学・災害・施設管理の4観点で検討している、災害面では、新設校の場合は災害警戒区域を避けるが、既存校を統合先とす

る場合は安全な場所を選ぶのが難しい、笠岡市内の多くの学校が何らかの災害想定区域に入っているため、土砂災害警戒区域に一部かかるものの、合理性などを踏まえて新山小学校への統合案を提示した、計画は急進的なものではなく、令和9年度に吉田小を新山小へ、北川小は令和12年度、笠岡西中などは令和17年度を目途に段階的に進める予定でいる、財政逼迫への対応が主目的ではなく、将来の児童数の減少を見据え、子どもにとってより良い教育環境を整えることが目的であると回答しています。複式学級については子どもが可哀想との見方は疑問で、異学年で学ぶことで得られる力が大きいのではないかというご質問について、回答については、複式学級が可哀想といった訳ではないが、児童の負担が大きく、今後笠岡市内で複式学級が増えると、県の教員加配などの支援を十分に受けることが難しくなると懸念している、過去の複式授業では、教師が学年を行き来する渡り授業などで対応してきたが、限界がある、できるだけ児童の負担を減らすためにも、より多くの子どもが集まる環境を整えることが望ましいと考えている、と回答しています。複式学級については、地域の方からこんな意見もありました。孫が3年前に今井地区から笠岡小学校へ統合された経験を持つ、娘によると、複式学級を行うような教育になるのなら笠岡小学校の学区に転居したい、という保護者の声も多かったという、学校は地域のためではなく子どものための教育機関であり、子どもに最も良い環境を優先すべきだと考える、出身校がなくなるのはつらいが、少子化の原因は自分達にもあり、今回の統合案はやむを得ない、という意見もありました。令和12年の小学校統合後、子ども達がどの中学校に進学するかを聞きたいということで、回答は、新山小学校に北部3小学校が統合された後、北川小学校の子ども達はまず新山小学校へ通うことになる、卒業後の進学先については、現時点で小北中学校の今後の方向性が定まっていないため、具体的なことは申し上げられない、ただ、ご質問のように新山・吉田の子どもと仲良くなっても、中学校で別れるのは負担になるというご懸念は理解しており、今後はその点も含め、地域の皆様と意見を交わしながら検討を進めていきたいと考えている、と回答しています。北川小学校は令和12年度に新山小学校へ統合される一方、吉田小学校は令和9年度から先に新山小と一緒にいるため、3年間のタイムラグが生じることに疑問を持っている、この3年間のずれが生じる理由を知りたいという意見です。回答については、児童数の推移や複式化のタイミング、施設管理の観点から、吉田小は早期に新山小へ統合する必要があるため、令和9年の実施を提案した、北川小は当面変則複式で県の加配を受けつつ対応できるため、統合を令和12年にし、急な一括統合を避けて段階的に進める判断を

した、と回答しています。複式が解消された場合、北川小に戻れるのかということですが、要するに統合がなくなるのかということについて、今回の統合計画はあくまで現時点での児童数の予測に基づくものであり、今後子どもが増えるなど、状況が変われば計画を見直す可能性がある、その旨は計画書にも明記していると回答しています。

小北中学校関係です。小北中学校の存続が最善だが、もし統合が避けられないなら、環境が類似する矢掛町との中学校組合立を維持し、矢掛中学校への通学を選択肢として検討すべきだという意見については、回答としては、矢掛中学校との統合という意見もあったが、笠岡市民の教育は笠岡市が責任をもって行うことが基本であると考えている、したがって、笠岡市内の中学校で教育を受けたい、受けさせたいと思ってもらえるような魅力ある教育環境の整備に努めていく考えであると回答しています。

9ページをご覧ください。提案として、現在の統合計画は一旦白紙に戻し、北川小学校と小北中学校を一体化した小中一貫校を設立してはどうかと考える。地域とともに子どもを育てる教育を実現でき、児童数の少ない地域ならではの特色ある小中一貫教育のモデルになるのではないかと思う、というご質問に対して、回答は、小中一貫校のご提案については、一つの考え方として受け止めている、小中一貫校にしても、小学校での複式学級や中学校でのクラス替え不可といった課題は解消できず、教育上のデメリットも大きいと考えている、そのため、現行の計画を策定した、また、小北中学校については、令和18年から19年度ごろには全校生徒が20人程度となる見込みであり、今後更に減少する可能性もある、こうした状況を踏まえ、今後のあり方について、皆様のご意見を伺いながら検討を進めていきたいと回答しています。全体を通して、保護者の方が多くこの会には参加されていましたが、統合について否定的な一部の地域の方からの強い発言があり、保護者の方からのご意見がほとんどないような状況でした。全ての会が終了した後、保護者の方が何人か来られて、今日の会は小学校の統合を行う前提で来たのに、そういう話がなかなかなかったですね。という声も聞こえてきました。

大重教育長
教育委員

それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

地域の人が、地域の繋がりが断たれるのではないかみたいなことを心配されていますが、私はオープンスクールの時に陶山小学校に行って、陶山小学校はもうすぐ城見小学校と統合する、掲示板を見ると地域の方とも交流がある、校長先生にもお伝えしたのですが、統合するから地域の人と学校との関わりはもうできないとかいうのではなくて、色々な学校が一緒になっても、その地域のそれぞれの良さを引き続き学校で行って、陶山地域

の人が城見の子ども達にも地域の人にもその良さを教えるとかいうことは可能だから、統合するから活動が減るというマイナスな意見は持たないで欲しいというのはすごく思って、大人も学校がなくなるから寂しいではなくて、仕方がないことなのだから、段階的に令和何年にはどれぐらい人数が減るといふ風にずっと示してあるのだから。であったら、私達の地域の人間は今後どのような形で子どもと関われば良いのか、というのを見据えていって欲しいなというのをすごく思っているんで、それを伝えました。

大重教育長

大事な部分だと思います。本当にありがとうございます。考え方としては、統合によって学区が広がるという考え方を持たないといけないと思います。自分達が通っていた学校がなくなるから別の学区の学校に行くという、今までの関わりのあった地域を置いておいてという考え方だと、良くないと思うのですよね。だから、学区が広がるという考え方を持つということが非常に大事なのです。学校は地域と、特に公民館あたりとも密接に連携・協力していますが、公民館の学校に協力するし、公民館の活動への学校の協力みたいなことも今までもあったりしましたので、学区が広がってその学区の中に複数の公民館があるということも今後出てきた時に、そこをどういう風にやっていくのかという調整を、まさにこの統合のタイミングでしっかりやっていくことが非常に大事だという話を、内部でもしているところではあるのです。これは学校教育サイドのことだけではなく、それこそ公民館サイドということになると生涯学習サイドの方も絡んでくる話なので、そこをどういう風に絵を描くのかということが大切です。これが変わっていくタイミングでそこを見直すということをしていかないと、今のような声になっていると思うので、そこは私達も大事なところだという認識をしているところです。それでは、他の委員さん方はいかがでしょう。

教育委員

(なし)

(3) 第21回木山捷平文学選奨作品募集結果について (生涯学習課)

古宮課長

資料は協3-1をご覧ください。今年度の木山捷平文学選奨の募集結果をご報告させていただきます。部門は6部門で、括弧内は昨年度の数字です。今年度の短編小説賞の応募数は286作品で、昨年度の244作品を上回る応募数となっています。今月の25日には予備選考委員会にて、あらかじめ予備選考委員さん2名それぞれの先生により絞り込まれた作品の選考が行われる予定です。明けて1月19日には本選考会というスケジュールで進めていくこととしています。続いて、随筆・詩・短歌・俳句・川柳の部門です。各部門の応募状況の傾向でいいますと、随筆部門は減、詩

部門については小学生が大幅減、中学生が大幅増、高校生の部が大幅減と
なっています。短歌部門については小学生が減、中学生が増、一般の部は
若干減。俳句部門については小・中学生が大幅減、高校生の部が大幅増と
なっています。川柳部門については小・中学生が減、高校生の部が増とな
っています。部門によって増減があり、担当とも話をしたのですが、これ
については単純に減っている・増えているというより、それぞれの学校さ
んが色々な部門にチャレンジしているということが、年度によって違う数
字になっているのではないかと推測をしています。いずれの部分におい
ても、それぞれの部門の選考委員さんで順次審査を進めていただしてい
ます。同じく来月の1月15日に結果発表を予定しています。全体の部門の
表彰式は、3月1日(日)にギャラクシーホールにて表彰式を予定してい
ます。

大重教育長 委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

教育委員 作品がすごく増えているのは、例えば学校の授業で作ったものであつた
りということなのですか。

古宮課長 直接お伺いはしていないのですが、先生方がそれぞれ力を入れていただ
いている、色々工夫してくださっている結果でこういう応募になっている
のかと思うのです。色々な分野にチャレンジできるようにということで工
夫をしていただいていると思います。すごく頑張っていたというの
がよく分かるようになっているので。また、作品集を持ち帰っていただ
いて、しっかり先生方にも見ていただいているということです。

教育委員 学校現場の先生方も、やる気になられる方もいらっしゃるかもしれない
ですよ。

大重教育長 短編小説の作品数が今回増えています。いわゆる財政見直しというこ
との中で、短編小説については賞金を50万から30万にしたというあた
りがどう影響するかということもありますけれども、結果的には応募者数
は増えていますので、そこは影響はなかったのかと思っているところで
す。それでは、この項目は以上でよろしいでしょうか。

教育委員 (異議なし)

(4) 笠岡市立図書館への国際ソロプチミスト笠岡からの寄付について (生涯学習課)

古宮課長 資料は協4-1から4-3となっています。10月15日に国際ソロプ
チミスト笠岡様から、読書推進のための図書購入に役立てていただきたい
ということで、笠岡市立図書館にご寄附5万円をいただきました。使途と
しては、児童書の充実のために活用させていただく予定としています。同

団体からは長年寄附をいただいております。現在収蔵している冊数は1,167冊となっています。また、こども図書館内には写真にありますように、国際ソロプチミスト笠岡様の寄贈図書コーナーを設けており、図書購入後はこちらのコーナーへ置かせていただく予定としています。

大重教育長 委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。
教育委員 (なし)

(5) 年末年始の休館に係る図書館サービスの変更について (生涯学習課)

古宮課長 資料は協5-1をご覧ください。例年のように年末年始に図書館が休館しますので、利用者への対応として、12月2日より28日まで図書館サービスを変更します。変更点は2点で、1点目は貸し出し冊数の増冊、2点目は貸し出し期間の延長ということになっています。

大重教育長 委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。
教育委員 (なし)

(6) 笠岡市立図書館の行事等について (生涯学習課)

古宮課長 資料は協6-1から6-5までとなっています。これから年末までの5件の行事のご紹介です。協6-1は展示「岡山のプロスポーツを応援 選手イチオシ本」の開催についてで、岡山県立図書館企画に連携して開催するものです。協6-2は、毎年恒例になっている図書館で購入した雑誌の付録の抽選会です。協6-3は、大人のための映画会の開催です。盲ろう者の福島教授と、そのお母様の実話を描いた人間ドラマを上映することとしています。協6-4は図書館の講座、「南海トラフ地震による災害と備え」についてです。こちらについては岡山地方気象台より講師をお呼びして、南海トラフ地震の被害想定と、私達ができる防災や備えについてのお話をいただく予定です。同時開催として、郷土館の出張展示「笠岡と災害」を開催する予定としています。協6-5、毎年開催している幼児・児童及び保護者向けのイベントです。おはなし玉手箱が12月20日となっています。

大重教育長 それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします
教育委員 (なし)

(7) 笠岡市立竹喬美術館の行事等について (生涯学習課)

古宮課長 資料は協7-1をご覧ください。竹喬美術館では、毎年竹喬の誕生日1月20日に近い日曜日を、誕生祭として事業を開催しています。今年は11月23日(日)、市民会館のホワイエで、茶道連盟様のご協力により

茶会を開催する予定としています。委員の皆様方も、ご都合がよろしければ是非お越しください。

大重教育長 ご質問・ご意見があれば、お願いします。
教育委員 (なし)

(8) その他

川口課長 当日配布の資料として、机の上に「令和6年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」をお配りしています。8月の定例会で委員の皆様以案についてご協議いただき、加筆修正を行った後、10月6日に評価委員会を開催して、3名の評価委員の方に点検・評価についての説明をいたしました。この度評価委員さんから総合評価をいただき、点検・評価報告書が完成しましたので、お配りしています。総合評価については61ページから66ページにありますので、またご覧いただけたらと思っています。評価委員全員から総合的に概ね達成されたという評価をいただいています。また、課題や改善点についてもご指摘をいただくとともに、第三者としての視点から貴重なご意見をいただいていますので、今後の教育行政の参考にしていきたいと考えています。

大重教育長 それでは、この件について委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。評価委員の皆様方から概ね達成されたと言われてはいるのですが、中身を見ますと具体的なことも含めて色々ご示唆をいただいているので、今後にしっかり生かしていけたらなと思っています。それでは、委員の皆様からはよろしいですか。

教育委員 (なし)

山本所長 給食センターから、皆様にお知らせとご相談させていただくことがあります。本日お配りしている資料が2枚あるのですが、冬休みの間を使って学校給食に伴う絵手紙を児童生徒の方に描いていただいております。例年ですと、一つのテーマに対して絵手紙が大体2千点ぐらい提出されたものの中から、年明けに審査を行うようになっていきます。これまで南一平先生に審査をお願いして、最終的なものを見ていただいたのですが、今年は体調を崩されていて一平先生の力を借りることができなくなりました。冬休みが明けてから学校給食週間までに間に合わせようと思うと、タイトなスケジュールの中で行う必要があることから、1月13日を締め切りとして、1月16日に教育委員会の日にちがあるものですから、各学年ごとに2名ずつぐらいの作品を選んでいただきたいということで、委員の皆様のお力を借りられないものかという相談になります。各学年の絵手紙を12枚ずつこちらで厳選していますので、そこにこの絵手紙は良いなということで、

付箋のようなものを各学年ごとに2枚ずつ貼っていただくという作業をしていただけないでしょうか。

大重教育長 ということです、1月の教育委員会の時に絵手紙を実際に見ていただいて、教育委員の皆様方も審査委員として加わってくださらないかという提案ですね。

教育委員 私は1月が出席できないので事前にでしたら。金・土といないので、木曜とかに用意していただけたら行きますので。

山本所長 木曜の夕方には用意します。

大重教育長 それでは、そういう風に対応させていただくということで給食センターの方はよろしいですか。他の委員さん方もそういう形でよろしいですか。

教育委員 (異議なし)

大重教育長 それでは、この件についてはご意見等はよろしいでしょうか。

教育委員 給食つながりでいいですか。読書習慣メニューがありましたよね。あれは毎年されていきましたか。改めて献立を見ていたらそう書かれていて、面白いことをされているのだなど。

山本所長 5年度からやっているといます。1週間ありますから5冊を選んでいただいて。絵本が主なのですが、絵本の中に出てくる料理の給食メニューを作っています。学校司書の方から各学校から本を提案してもらい、こちらで献立を検討しているようなものです。

教育委員 とても面白くて、連携されているのだなと感じました。

山本所長 自分の学校が選んだ本が出たところは非常に反応も良く、残食率も減るはずです。

大重教育長 今後もしっかり工夫をしていただけたらと思います。その他、事務局の方から何かありますか。

藤代課長補佐 12月19日の定例会の後に、忘年会をさせていただこうと思っています。18時半から、場所は横島の若よしです。よろしくお願ひいたします。

大重教育長 ほかに何か。

教育委員 その他の項目を借りて質問なのですが、にじいろ認定こども園と旧北川保育所(みのり認定こども園)が廃園になるということで、この前説明会をされています。そのこども園に通っている保護者の方から、説明は受けたのだけれども、人数が少ない中でずっと教育を受けていて、近隣のこども園に行くというのに不安を持っておられる、心配をされている保護者の方もいるから、神外の小中学校が編入学制度があるように、こども園もそういうことができないのかという意見をいただきました。発達に支援がいる子どもさんを持つ保護者の方が相談を受けて、多いところに行かせるの

が心配だということで、友達との関わりの中でトラブルが起きた時の対応とか、先生達がちゃんと見てくれるかどうかという不安もあるという声をいただいています。私はずっと笠岡の認定こども園に子ども達を通わせていて、中には支援のいる子ども達がいきましたが、先生方もすごく丁寧に、教育をきちんと受けていたのです。そういうのを見てきているから、その人には一応、多いことのメリットとしては、小さい時から子ども同士が関わっているから、子どもの特性も子どもなりに分かっているから、小学校になってもそこをカバーしながら、お互い助け合いながら小学校生活を送れているというメリットはある。だけれども、どうしてもデメリットとしては、トラブルは人数が多い分多くはなるかも知れないということは伝えたいのですが、無くなるというと不安があるから、こども園も選択できるような対策ができないのかという意見もいただきました。

大重教育長

本来でしたらこども園の方を所管しているのはこども育成課なので、こども育成課の方からお答えするというのが良いと思いますが私の方からいくらかお話しをさせていただきます。

今のお尋ねというのは、小規模の保育環境を選択できるようにできないかということですよ。例えば小・中学校については適正化を考えて行く時に、小規模の学校のメリットもあるということの中で、意図的に神島外小中学校を残しています。そしてそこには転入学特別制度を敷いているので、市内どこからでも行けます。学区の問題についてはこども園はフリーなので、市内どこからでもどこのこども園にも行けるので、ここが難しいということであれば他の園を選ぶということは当然可能です。例えば通勤途中にあるこども園にということも可能です。そういう部分で言うと今のままでもどこに行くかを選ぶことはできます。だけれども小規模の方がという部分に関しては、これは統合を進めていくことによって小規模なところがだんだん無くなっていくことの中で、小規模の方が良いという子ども達についてはどう考えているのですかということについては、我々が直にお答えする部分ではないので、こういったご意見があるというのをこども育成課の方に伝えていきたいと思います。

教育委員

その方の考えとしては、神外の小学校か中学校のどこか敷地内に、空き教室はないかもしれないのですが、一部幼稚園みたいにはできないのかなということ言われていて、そうしたら島の子ども達も通いやすいではないかという意見もありました。

大重教育長

ご意見については、こども育成課の方にも伝えていきます。それでは、他に委員の皆様方から。

教育委員

べいふぁーむマラソンについて、今回ハーフがなくなるのではないです

か。あれは我々界限では衝撃でして、笑い事ではないぐらい皆衝撃を受けて。それが、橋が工事中で通れないらしいのですよね。それが2月まで直らないからコース的に難しいということを伺いました。あとは畜産業の方がそこを通らないで欲しいというような、そういう話が出ているとかいう話を聞きました。それを聞いたら「ああ、そうだったんだ」と納得はできたのですが、そういう情報はホームページにもチラシにも出ていなかったもので、皆様は内容を削ったという印象で怒っている人が多いのですよ。なので、もし来年もこのまま10kmだけにするのであれば話は別ですが、復活することも検討に入れられているのであれば、ホームページであつたらすぐ追加できるのではないですか。今回はこういう事情でハーフを止めざるを得なかったと。あとは誘導車の話ですよね、誘導車の先頭車両と、20kmと10kmでぶつかってしまうというトラブルもありそうだったからと聞きました。とにかくそこら辺の説明を入れてあげた方が良いのかなと。調べる人もいると思うので。

重見課長 今年ハーフを止めるのは、干拓3号大橋という橋があつてそこを走っているのですが、今年の3月のレースの時も本当は通行止めだったのですね。でも、車は通れないけれども人は通れるということで、車の通行止めをしていたのをその日だけは解除してレースをしたのです。もう工事に入ると思うのですが、今度はそれを修繕する工事に入るので、レースの時は工事期間中になりますからハーフはできないということになりました。それを載せるかどうかというのは協議はしたのですが、運営の面でもハーフをやるにあたって課題があるのは確かなのです。ただそれを、課題があるからといって来年以降も止めるかどうかというのはまだはっきり決まっていらないのですね。なので止める理由というものを記載していないのですが、これまで参加されていた方の中で、疑問とか説明不足ではないかというお考えもおありでしたら、そういった理由は載せても良いかなという風にお話を聞いて思いました。

教育委員 10kmマラソンはそこら辺にあるので、20kmは意外に少ないので、結構貴重で。この間私が倉敷の銀行に行って担当者と話した時に、笠岡出身なのですね、ベイファームがあるじゃないですか、ベイファームマラソンがありますねと。私が走っていることを知らないのですが、そういう話題が出てきて、伝えたら「えっ」みたいな顔をしていて。貴重なのですよ。これは私の一意見のような感じですが。

教育委員 他にもハーフだから出たいとかいう方はきっといらっしゃいますものね。その方達が離れていったらもったいないですよ。

重見課長 笠岡は平地なので人気があるのです。アップダウンではないのでタイム

が上がるので。

教育委員

是非またハーフが戻ってくれば良いですね。

重見課長

今年度は橋の工事をするという物理的な面でできないので、その辺はもう少し説明を加えた方が良いのかなと。

教育委員

あとは企業さんですが、カブトガニ駅伝、この間心配されていたのがあって、あれは結局どのぐらいの応募が。

重見課長

あれは12月1日まで募集中です。

教育委員

市からは離れたのでしたか。

重見課長

スポーツ協会を中心にやるのですが、我々も事務局として関わっていて、昨年までは太陽の広場で走っていたのですけれども、色々コストを削減してやろうということで、今回は笠岡総合スポーツ公園の中に遊歩道的なものがあるのですが、そこを走るということで12月14日に開催します。

教育委員

私達もそれは行かなくて良かったですか。

重見課長

前回までは大会役員みたいな形で開会式とかにご参加いただいていたのですが、基本的に昨年度の事業見直しで、市が主催というか廃止というのを打ち出しましたから、今年度からはスポーツ協会が中心で規模を縮小して、自分達でできる範囲でやるということになりましたので、応援に来ていただければありがたいなと思います。

大重教育長

その他はもうありませんかね。

教育委員

(なし)

大重教育長

それでは、長時間にわたりありがとうございます。お疲れ様でした。次回は12月19日ということでよろしく申し上げます。以上で終わりにしたいと思います。お疲れ様でした。